

## 小学校 第3学年国語科での実践事例

単元名「はたらく犬について調べよう」

〇〇立〇〇学校 教諭 〇〇 〇〇

### アクティブラーニングの視点からの工夫

- 学習したことや調べたことを全校生や保護者に伝えるためにリーフレットをつくるという課題を児童と共に設定し、目的意識をもって主体的に学習できるようにした。
- 課題を解決するためにグループや全体での話し合いの場面で、相手の考えに対して「比べて」「例えば」「でもね」等の言葉を使いながら問い返す活動を繰り返し行い、自己の考えが深められるようにした。

### 1 学習指導過程（本時8 / 13）

○本時の目標

「盲導犬にふさわしい心構えは？」の問いに対する答えを考え、要約して書くことができる。

学習活動	指導上、留意した点
1 前時までを振り返り、本日のめあてをもつ。	<b>主</b> ゲストティーチャーからのメッセージ動画を視聴する場を設定し、単元の目的を確認したり、意欲を喚起したりする。
「盲導犬にふさわしい心がまえ」について要約し、リーフレットを書き加えよう。	
2 中心となる文や言葉を見付け、要約する。 (1)自分で考える。 (2)グループで考える。 (3)全体で話し合う。	<b>主</b> ・書き込みができる短冊カードを用意し、児童の発言を黒板で操作できるようにする。 <b>対</b> ・前の発言者との関わりで話すよう助言する。 <b>深</b> ・短冊カードを操作しながら、大事な言葉や文につながる発言を称賛することで、児童の多様な発言をコーディネートする。
3 リーフレットに書き加え、本時の振り返りをし、次時への課題をもつ。	<b>主</b> ・要約した文章を友達と読み比べることで、本時の学びを振り返られるようにする。
〔期待する生徒のまとめのことば〕 言葉を削ったり、書き換えたりするとすっきりと要約できた。リーフレットに書き加えたい。	

### 2 実践後の成果と課題（授業での生徒の反応や変容から）

- 単元の始めに、盲導犬と視覚障害のあるゲストティーチャーを実際にお招きし、その交流から沸き起こる興味や疑問を大切にしながら、課題を設定したことで、毎時間の学習の目的意識が明確になった。
- 児童の主体性を生かせるように、自由に発言できる話し合いを繰り返し行う場面で、話し手の心や言いたいことを汲んで聞く児童の姿が見られた。また、深い学びにつながる自然な発言が出る児童が増えてきた。

### 3 本実践での課題

- 次の時間へのつながりが弱くなる児童もおり、振り返り場面において思考を深める工夫が必要であった。
- 自分の考えがより深まったという実感をより味わえる話し合いの場になるように、話し合いの必要性を高めたり、一人一人の考えが表出され、更に互いの考えを聞きながら自分の考えとつなげたりするような工夫をしていきたい。